NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR PARAPSYCHOLOGY

July 1980 NO. 26

日本超心理学会第13回大会の開催について

本年度の年次大会は12月の土・日(期日未定)の両日開催することを予定しております。会員各位の日頃の研究の成果をふるって御発表下さい。とくに若い新進気鋭の方々の独創的な実験などを期待しています。大綱は次の例会で相に決定する予定ですのでいろいろ御意見をお寄せ下さい。

学会ニュース

第144回月例研究会

1980年6月15日(日)10.00～15.00 学士会館本館にて開催。出席者は4名。金沢氏が"精神的のサイコトロニクス理論について"を紹介。それをめぐり討論が行われた。その後金沢氏による Alan Gauld and A.D. Cornell の著書 Poltergeist ([illegible])の紹介があった。

第145回月例研究会

1980年7月20日(日) 10.00～16.00 学士会館本館 出席者は7名. 第13次大会の準備について金沢氏から提案があった。次に大谷氏が中国[illegible]の論文"人体的超微弱発光"を紹介。討論が行われた。ついで金沢氏がJ.E. Kennedyの論文"Learning to use ESP"を紹介した。

お知らせ

第146回月例研究会

1980年9月21日(日) 10.00～16.00

場所 学士会館本館 東京都千代田区神田錦町3-28
Tel. 03-292-5931(地下鉄東西線竹橋下車)

議事 日本超心理学会第13回大会の準備について
夏期研修会の反省.

文献紹介 Stephen E. Braude
ESP and psychokinesis
a philosophical examination
紹介者 金沢元基

トピックス

"スーパーネイチュア"(牧野賢治氏訳)の著者として我国にも知られているイギリスの有名な動物学者Lyall Watsonは最近"Lifetide"(Bantam edition 1980)を著わした。これは無意識の生物学という副題をもち、生命の起源から人間の超常的性質に到るまで生命の形態と意識の進化の線に沿ってのべ、人間の宇宙における位置を探ろうとしている興味深々たる書物である。前著と同じく多彩な超常現象が登場するが、その中でも彼が1974年にヴェニスを訪れたとき会ったClaudiaという少女の話は驚くべきものである。彼女は普通のテニスボールを[illegible]手でそれをしばらくこすり、ワトスンに返した。それはやはり元のテニスボールであったが、何と裏返しにされたボールだったのである。ワトスンはそれを強く押したり、床に落したりしたが異常なかったのでナイフでその表面を切り裂いた。中からは通常の羊毛で覆われた表の面が出て来た。球面を切り裂くことなしに反転することは不可能である。彼はこの現象に大きなショックを受けた。ワトスンが詐術にあったのではないとすれば、この現象を説明するには4次元の空間など通常の物理空間でない空間が必要であろう。この現象はPKの説明に1つの示唆を与えるものではないか。

NEWSLETTER OF JSPP No. 26, 1980.7.21発行
© 編集・発行・日本超心理学会 (頒価.200円)

Alan Gold and A.D. Cornell : Poltergeist

紹介者　金沢元基

著書のAlan Goldはノッテンガム大学の心理学講師で、1962年以来SPRの評議員をつとめ、その著書には"The founders of Psychical research"(1968) John Shotterと共著"Human action and its psychological investigation"(1977)などがある。またHandbook of parapsychologyの中で"Discarnate Survival"を執筆した。Tony Cornellはケンブリッジ州会議員でサイキカルリサーチに25年のキャリアをもち、とくにポルタガイストやapparitionに関心をもち多くの論文を出している。催眠術師でもあり、超心理関係のテレビにも時々出演するなど多彩な活動をつづけている。彼もまたSPRの評議員である。彼等はこの書物の中で16世紀から現在まで世界各地で起ったポルタガイストの事例をいくつかの指標に照らして取上げ分析する。全体はII部に分れ、第I部は事例調査とサンプリング、第II部は彼等が自ら立会った事件の叙述と分析である。第I部は12項目に分れている。それは順にあげると 1.序論 2.16世紀の3つの事例 3.ポルタガイストと魔女 4.ポルタガイスト人 5.破壊的ポルタガイスト 6.奇怪なポルタガイスト 7.ポルタガイストの襲撃 8.ポルタガイストと死者 9.ポルタガイストと悪魔 10.幽霊騒動 11.中間的事例 12.ポルタガイストとコンピューター である。第II部は6項目に分れ 13.ポルタガイストの説明 14.あるポルタガイスト現象 15.ある幽霊騒動 16.異常な事件 17.作用する力 18.ポルタガイストは生きているか死んでいるか である。彼等はポルタガイストと幽霊騒動の500例の報告についてコンピューターを用い統計的な分析を行なっている。まず証拠の価値は1から10までの点数で評定される。例えばsecond-handで昔の記憶にもとずくようなものには1が、専門家による連続的機械記録にもとずくようなものには10という評定が与えられる。ここで証拠の評定はそれがパラノーマルであるか否かとは無関係である。500事例は63個の指標にしたがって分析される。各指標について、それが起ったものには1が、起らなかったものや起ったかどうか解らないものには0が与えられる。事例は1873年までのものとそれ以後1945年までのものと250例ずつと、また評定3以下のもの253例と4以上のもの247例と、ヨーロッパ・アメリカ圏のもの460例とそれ以外の地域のもの40例に分けられている。1873年以前と以後とでは指標の第31番目を除き、第6番目から第56番目までの指標についてのX^2分析によるとP=0.0001で有意な差が認められた。また証拠が弱い253例と強い247例の比較で25個の主要な指標についてX^2分析でP=0.0257であった。ポルタガイストの説明に当たり、ゴールド等はまずfraudの可能性を調べている。上の500例中、約8%にインチキが発見されたという。彼等の研究した約50例の中でも7～8個はfraudが明白であったという。そのやり口は大抵単純で、物品を投げるひっくりかえす等の手の巧妙さと、心理的なたくみさを利用している。機械を用いた例もあり、残りの92%中にも未発見のもっと複雑なトリックがあるかも知れないと言っている。奇術師のやり口が研究されねばならない。だが専門の奇術師がやるようなトリックを10代の少年達があの様に出来るとは考えられないとゴールドはいう。人をのせたベッドの浮揚例も多いが、それをトリックでやるとフォークリフト車のような何かを必要とするし、中には乗合馬車の空中浮揚、2.5トンのジープの浮揚の例もある。したがって次に問題となるのは観察者の錯覚や誤った解釈である。1つの例をあげてみよう。1957年にゴールドが研究したものである。ケンブリッジ州のある家の住民達が奇怪なノックする音(ある特定の場所からくるというのではなくあらゆる方角からくる)音におびえていた。一家がこの家を去ろうとしたとき説明が発見された。りんごが納屋の2階に貯えられており、ねずみがそれを見つけた。彼等は納屋のはしにまで大きなりんごをころがし、それを空洞の壁穴に押込んだ。りんごの落ちる音が多くの音の原因であった。ゴールドは音の錯覚の他に、ドアの開閉やあかりの点滅についての錯覚についてものべている。

ゴールドの同僚が調査した例は、ある婦人が亡夫の霊が彼女のベッドのランプを彼女の望むままに消すというものである。彼女はベッドへ行きランプのスイッチを入れしばらくして亡夫に消すよう祈った。直ちにあかりは消えた。またしばらくしてあかりをつけるように頼んだら再びついた。フレックス、プラグ、ソケットは故障なく、彼がランプのかざりをとると、サーマルスイッチが電球の近くの回線の中にくみこまれていたことが分った。その婦人はおそらく彼女のリクエストの時間とスイッチの作動を一致させることを知ったのである。このように我々は冷静に現象を観察し、まずあらゆるノーマルな原因の可能性を考えてみなければならない。